

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493300238	事業の開始年月日	平成25年10月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 なかやま		
所在地	(〒226-0013) 神奈川県横浜市緑区寺山町362-46		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【特に力を入れている点】 <ul style="list-style-type: none">・恵まれた環境を大いに活用し毎日の散歩、悪天候の場合は体操を行ない筋力維持・低下を防ぐようにしております。・気分転換や入居者同士や職員との交流を図るために毎月外出行事を行なっています。・清掃・調理・洗濯・野菜や花の世話など出来ることをやっています。 【アピールしたい点】 <ul style="list-style-type: none">・入居様が元気で楽しんで生活している・職員が明るく入居者様の生活を支援している。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9 階		
訪問調査日	平成28年 2月 10日	評価機関 評価決定日	平成28年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 <p>この事業所はJR横浜線中山駅から、徒歩15分ほどの自然環境に恵まれた閑静な住宅地にある。近くには県立四季の森公園や保育園、神社がある。建物全体がリゾート地のペンション風で、吹き抜けなど窓の開口部が大きく、ゆったりとして広い。リビング、キッチン、ダイニングが建物の中央部に区分して配置されており、キッチンにいる職員が見守りやすく考慮されている。壁面には利用者が作成した、季節の行事の飾り付けなどで季節感をつくっている。</p> 【理念に沿った運営】 <p>運営理念が込められた5ヶ条の理念では、入居者ひとりひとりを大切に、「平等、笑顔、ゆったり、チームワーク」などを掲げ、実践につなげている。開設3年目であるが、職員の大半が5年以上の介護職経験者であり、行事なども職員が自主的に企画して、サービスの向上に努めている。</p> 【健康管理と災害対策】 <p>医療連携体制加算を算定しており24時間オンコール体制がある。月に2回、協力医の往診があり、看護師が週1回に1～2回健康管理に訪れている。訪問マッサージを利用している方もいる。消火避難訓練を年2回実施し、職員が自治会の防災訓練に参加している。</p> 【地域交流と利用者の暮らしぶり】 <p>自治会に加入し、地域の中山祭り、四季の森公園祭りなどに参加している。利用者は毎日の散歩や季節の行事、毎月の外出レクリエーション（四季の森公園、三ツ池公園、横浜バラ園、みなとみらい公園など）や外食にも出かけている。近くの保育園に出かけ、折り紙で作ったリボンのメダルを贈呈したり、敬老の日には園児を招くなどの交流がある。オカリナやキーボードを使って、歌唱や演奏などで楽しませてもらえるボランティアが毎月訪れている。利用者は、塗り絵や切り絵、ロールピックチャーなどのレクリエーションを楽しんでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語なかやま
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	花物語なかやま
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は朝の申し送り時に唱和し各自理念の内容を実行できるように目標とし日々業務にあたっている。	開設時に作成された5ヶ条の理念があり、入居者一人ひとりを大切に、「平等、笑顔、ゆったり、チームワーク」などを事務室に掲示し、申し送り時に唱和している。職員の表情・態度は、利用者に影響を及ぼすので、自然体の笑顔で接するように意識づけをしている。開設3年目を迎え、職員の交代もあったので、利用者の「その人らしい生活」の支援の在り方について、運営理念を見直す意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩で近所の人への挨拶、公園スタッフとの交流、公園でカワセミを撮影している複数のカメラマン他交流する機会が多い(隣接の県立公園は広く来園者が日々多い)	寺山自治会に加入し、地域の中山祭り、四季の森公園祭りに参加している。近くの神社の神輿が立ち寄ってくれる。自治会の防災訓練には職員が参加している。近くの保育園に出かけ、折り紙で作ったリボンのメダルを贈呈したり、敬老の日には園児を招くなどの交流がある。四季の森公園の散歩中に、利用者として毎月訪れている。今後は、地域住民を招く行事を企画したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し認知症対応施設としての情報を発信したり地域の行事に参加することで地域に貢献できるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には常に家族様が6組以上出席して下さったり自治会長さん地域包括支援センターからもご協力いただき活発なご意見をいただきサービス向上に生かせるように取り組んでいる	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者家族(6家族)、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議では行事、事故、ヒヤリハット事例、外部評価結果などを報告し、運営のアドバイスを得ている。家族からの意見で、ホーム便り「花物語なかやま通信」の写真は、利用者の生活の様子が分かりにくいとの指摘を受け、より多くの利用者や行事の写真を掲載することにした。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>2か月に一度は運営推進会議の議事録を持参、また介護保険の手続きに訪れた時など情報交換を行なっている。地域ケア会議でも同席させて頂いた。</p>	<p>横浜市には事故報告を行っている。地域ケア会議や緑区認知症ケア会議、認知症サポーター養成講座に参加して、行政および事業者と事例検討や意見交換し、研修にも参加している。消火・避難訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている。</p>	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないがユニットから出る際はテンキーが設定されている。それ以外は身体拘束や他の拘束は行っていない。内部研修でもまたニュースなどで身体拘束が取り上げられた時など会議の時にも話題に出し職員の意識は高い。	身体拘束を行わないことを、契約書や重要事項説明書に明記している。意識の再確認のため内部研修を行っている。スピーチロックなどがあったときは施設長が注意している。建物周りは段差があり危険であるので、利用者・家族の同意を得て、ユニット玄関は施錠している。利用者の不意の外出を察知した時は、職員が付き添い気分転換を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビニュースや新聞で虐待の事が出たりした時は改めて話題に取り上げ虐待が絶対ないよう意識を持ってもらうようにしている。内部研修でも取り上げている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修でも取り上げたりこれからも機会があれば学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて丁寧な説明を行ないご家族にご理解を頂いていると思う。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に面会用紙と『意見と要望』用紙を常備し記入できるように。また運営推進会議での意見や質問にもお答えし、議事録を運営推進会議後ご家族や行政にも送付し確認いただいている。運営にも反映させている。	玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時や行事、運営推進会議などで意見を聞く機会を設けている。出された意見・要望は「苦情・相談ファイル」に記入して運営に反映させている。「タバコを吸いたい」と言う利用者の家族から相談を受け、カンファレンスで喫煙本数を検討し、屋外に喫煙場所を設けた。利用者の生活の様子は、居室担当者のメッセージ、本人とホーム全体の生活や行事の写真を添え、月1回家族に送付している。	今回の外部評価で行った「利用者家族等アンケート」などから明らかになった意見・要望を、運営に反映されることを期待します。また、来訪の少ない家族には、きめ細かい状況報告を期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議を行ない意見を聞き、概ね反映出来ていると思う	施設長は法人の運営会議に出席し、エリア内のグループホーム施設長と共通の運営課題を話し合っている。施設長が全職員を対象に、年に2回個別面談を実施し、意見・要望を聞き、働きやすい職場環境を作っている。月1回、スタッフ会議（全体）、フロア会議（ユニット）を開催し、意見・提案を聞き運営に反映させている。職員には、行事、帳票、修繕、園芸などを担当してもらい、業務に励んでもらっている。法人には、「キャリアアップ研修制度」があり、資格取得や職員個々の業務の目標達成度に応じて職員の手当に反映させ、モチベーションアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者は職場環境・条件の整備に努めて遣り甲斐を持たせてくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人で積極的に機会を作ってくれているので余裕のある時は出来る範囲で研修に参加してもらっている。また初任者研修も法人内で行なうようになったので資格のない職員に受講を促しシフトの面でも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内だけではなく外部の研修にも出来る範囲で参加できるようにしている。刺激を受けてきて士気も上がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺い丁寧にアセスメントを行ない、またカンファレンスを職員間で行ないケアプランづくりを通してご家族・本人のご意向を聞きサービスに反映させるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談に伺い丁寧にアセスメントを行ない、またカンファレンスを職員間で行ないケアプランづくりを通してご家族・本人のご意向を聞きサービスに反映させるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	丁寧にアセスメントをすることで良いプランづくりを行なえる。ひと月後プランをモニタリングし更にその方にふさわしいサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護であるので共に生活できるように信頼関係を構築したうえで出来ることを探し支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも生活の様子を報告し（なかやま通信、ケアプラン、電話、運営推進会議他で）協力をいただきながら本人を支えていけるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みのお友達が訪ねてきたり以前から利用していた商店街での買い物を支援したり通いなれた公園での散歩も継続したり本人が大切にしている場所や人を職員も大切に考えてくれている。家族とも協力して関係性が継続できるようにしている。	家族、親戚、以前の同僚や同級生の来訪があり、湯茶で接待している。正月に帰宅する方もいる。散歩のついでに馴染みの店や、たい焼き屋に立ち寄ることもある。電話の取次ぎや年賀状、絵手紙の作成は職員が支援している。ユニット間の合同行事には、馴染みのボランティアとの交流や家族と面会する機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	此処では個室よりデイルームで一日を過ごされる方が多い。静かな時間を大切にされる方は個室で読書やテレビを見たりしているがお茶の時間、散歩や体操の時間、食事、おやつとの時間と食堂、リビングに出る機会が多い		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要なときはご家族とも連絡を取っている。また入院退去された方へお見舞いなどに行ったりして気にかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向は一番に考えており意向を把握できない時はご家族にお聞きしたり普段生活されている様子でなが本人に良いかを優先して考えるようにしている。	入居時のアセスメントで思いや意向を聞き取り、職員間で共有し介護計画に反映させている。入居後は、日々の態度、会話、表情、仕草などから汲み取っている。意思の把握が困難な方には、居室担当職員が利用者のやりたいことや食べたいことなどを、コミュニケーションを取りながら汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行ない、また直接家族に詳しく書いてもらったりしながら本人のより詳しい情報をつかみたいと努めている。アセスメントがしっかりできることで入居後が安定している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心地よい暮らしはどうしたら得られるのか常に職員同士意見を交えている。家族とも相談している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議でのカンファレンス、更新前のカンファレンス、モニタリング、アセスメントと充分話し合いの上、また家族にも意向を聞き介護計画書作成を行なっている。	本人と家族の意向を聞いて介護計画を作成している。協力医の診察結果を看護師が記録し、申し送りノートに記録している。3ヵ月ごとに、介護計画と連係した経過記録を確認しながら、モニタリングを行い、医師・看護師の意見を取り入れて介護計画を見直している。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を詳しく書くことで少しの変化にも気づくことができ、カンファレンスにも参考にし、見直しにいかせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何がその方にとって良い支援なのか心地よい暮らしとは何か常に家族も含めたチームで考えているので取り組んでいると思う。面会時の家族とのコミュニケーションを重視している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所してようやく2年です。地域資源もまだ十分把握できているとは言えない事もあるので豊かな暮らしを作るために更に努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医には入居者と職員も信頼し、安心してお願いできている。往診医が外部受診を勧める時はご家族対応。できない場合は施設で受診対応している。	入居前からの主治医に受診している方が1名、他の方は協力医の往診を受けている。内科医の往診は月2回、歯科医は毎週往診している。皮膚科、眼科等は外来診療であるが、家族か職員が付き添っている。医療連携体制加算の算定により24時間オンコール体制があり、看護師が週に1~2回健康管理に訪れている。訪問マッサージ（医療保険）を利用している方もいる。認知症の診療については、協力医の紹介先の病院で受診している。利用者全員がインフルエンザの予防接種を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に1~2日の勤務ですが情報を良く集めて入居者の状態把握に努めてくれている。介護職も看護師のノートに情報や依頼することを記入し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合一週間に何度も病院に行き看護師やドクター、相談員と情報交換に努めている。早期に退院できるように関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化指針の説明を行なう。またその必要時期が来た時には往診医、看護師、家族も交えて話し合いを行なうように取り組んでいる。まだ皆さんお元気なので今は必要な方はいない。	「重度化した場合の対応に係わる指針」があり、利用者・家族には入居時に説明し、同意を得ている。利用者が重度化した場合は、利用者・家族の意向に沿い看取り、または、他の介護施設などへの転居支援や入院支援を行う方針である。看取りの実例はないが、過去に2件の転居支援や入院支援を行った。看取り体制については、研修などを充実していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応研修を内部研修でも行なった。また経験豊富な介護福祉士が7名いるので安心して		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ほど緑消防署指導のもと避難訓練を行なっている。地域の方への協力依頼は自治会長さんだけなので、充分には出来ていないので2月に行う予定の避難訓練では協力依頼をしたいと思います。	消火・避難訓練を年2回、夜間想定で消防署の立ち合いのもと実施している。職員が自治会の防災訓練に参加している。事業所の訓練時には、地域住民に参加を呼びかけている。食料の備蓄は3日分あるが、飲料水は補充が必要である。停電対策のカセットコンロや食器、おむつなどの備えはある。	災害に備え、地域住民の協力を得ること、また、飲料水の補充と在庫管理を徹底することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として職員は入居者の事を尊敬して敬う心を持ってケアにあたっている。不適切な言葉かけが万が一あったときはお互い注意し合っている。内部研修でも取り上げた。	人格の尊重については運営規定などに明記し、利用者を人生の先輩として敬うよう、接遇や傾聴研修で教育している。職員は入職時研修で個人情報の保護について学び、保護規定を事務室に掲示している。個人情報に係る重要書類は、事務室のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表して下さることや自己決定できることは喜ばしいことなので大いに意思を出して頂けるようお願いしている。出せない場合は気持ちを察することをお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できる方はなるべく希望に添えるようにしているがそうでない方にもその方の生活のペースに沿うように一日の流れを決定している。無理強いはないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、おしゃれを出来る声掛け、お手伝い、また化粧品や洋服の買い物にも付き添って支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は冷凍品を活用しているがごはん、みそ汁は入居者と共に準備や調理を行なっている。調理時間が少ない分、おやつの手作りを心掛けており共に作ることで遣り甲斐、生きがいを感じて頂いている。	食材は配食業者から調達し、職員が調理し、個々の食事形態に合わせて提供している。味噌汁、ごはんは職員が作っている。季節にあわせ献立を変え、行事食や手作りおやつも提供している。茶碗と湯呑、箸は個々のものを使用している。玄関先に菜園を設け季節の野菜を収穫している。誕生会の食事や外食は希望を募り、ファミリーレストランや回転寿司店に出かけている。利用者には調理、下膳、テーブル拭きなど、出来ることを積極的に手伝ってもらっている。職員は食事介助に専念している。食事中は背当てや足台で座位を調節している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録には食事量、水分量を記入し栄養状態を把握し、必要なときには往診医や看護師に相談し必要な支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。歯科往診も毎週受け、その都度情報交換している。口腔ケアにより誤嚥の予防も出来る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用者が少ない。自立排泄できる方が殆どです。失敗はすることもあります。自尊心に配慮している。	排泄は自立の方が多。介助が必要な方には排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。トイレはユニットごとに3ヶ所（内1ヶ所は車いす対応）ある。手すり、肘掛、手洗い、ペーパータオル、シャワーを備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操を欠かさないようにしているので便秘の方は少ないです。3日排便がないと排便コントロールを行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望をお聞きし入浴を実施している。午前中を希望される方、夕方を希望される方、曜日を決めている方など希望に添えるようにしている。拒否の強い方にも何とか声掛けやタイミングを見ながら応じている。	週2回以上入浴している。午前、午後、一番風呂などの希望も、可能な範囲で対応している。夏は入浴回数を増やしている。浴室は広く、浴槽は2方向から介助できるように配置されている。浴室、脱衣室にはヒートショック防止対策としてエアコン、ヒーターが設置されている。入浴を好まない方には、相性の良い職員に代えたり、声掛けのタイミングを工夫している。同性介助は要望があれば対応する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい方がいた場合自由に休息して頂いている。長い時間になりそうときは声掛けし夜の睡眠に差し障りがないように心がけている。リビングのソファで寛いでいる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報で理解しようと努めている。薬が変わったときなど特に注意し症状の変化を往診医や薬剤師とも情報共有するように連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を入れているところです。一人一人が生き生きと生活するにはどんな支援がいいか毎月カンファレンスを行ったり毎朝の申し送りでも話し合っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族も外食、外出また外部受診も協力してくださっている。また家族で対応できない時は施設で買い物支援や気分転換にドライブも行っている。毎月の外出は法人のバスで出かけることが出来ている。	天気の良い日には、職員が付き添い車いすの方と一緒に、近くの公園や神社などに散歩に出かけている。陽当たりの良い吹き抜けのサンルームやテラスで日向ぼっこをする方もいる。家庭菜園では季節の野菜を栽培している。毎月、外出レクリエーションを企画し、四季の森公園、三ツ池公園、横浜バラ園、みなとみらい公園などに出かけ、花見や紅葉狩りを行っている。法人からは、運転手付きのバスを借りることができる。希望者を募りファミリーレストランや回転寿司店などにも出かけている。晴雨に係わらず、長い廊下(27m)で歩行し、体力の維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかいを預かっている方には買い物の時そこから出し、好みの物を購入している。ご自分で管理できてる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。一緒にポストまで投函しに行ったり預かっている。絵手紙や塗り絵を行なった時など手紙を書くことを薦めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋が一行に配置されており面して共有部分があり過ごしやすい空間となっている。	建物全体がリゾート地のペンション風で、吹き抜けなど開口部が大きく、ゆったりとして広い。リビング、キッチン、ダイニングが建物の中央部に区分して配置されており、キッチンにいる職員が見守りやすく考慮されている。共有空間は陽当たりが良く清潔で、テレビやソファ、生花が置かれている。壁面には利用者が作成した季節の行事の飾りやロールピクチャー、風船などが飾られ季節感を感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間がゆったりしているのでダイニングやリビングまたソファの周辺など思い思いの場所で過ごすことが出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときにはなじみの物を持ってきていただくように依頼している。食器類も。	居室にはエアコン、照明器具、障子戸、TV回線、クローゼットが備え付けられている。入口には季節の飾りつけや絵皿、人形、似顔絵などを入れるボックスがある。利用者は使い慣れたベッド、テーブル、イス、テレビ、整理タンス、家族の写真、人形などを持ち込んでいる。室内は整理整頓され清潔であり、清掃は利用者が自主的に行っている。	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人が安全で過ごしやすいように気を配っている。ダイニングで野菜の下処理。リビングでは塗り絵や創作活動が出来るように気を配っている。</p>		
----	---	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名

花物語 なかや子

作成日

平成 28 年 5 月 13 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開所以来掲げている理念を皆で見直しなかや子にふさわしい理念に作りかえたい。新しい理念を理解し実践する。	理念をスタッフ全員で唱和し、理解し、実践できる。	毎朝、唱和できる。朝の申し送り前に行はせていない場合、行はせようを促す。(社員) 毎月のスタッフ会議で理解できているか確認する。	H28.5.15 ～ H28.10.31
2	3	事業所の力を活かした地域貢献を行おう力がある。	・地域の集りに参加し、認知症対応施設としての情報を発信する。 又、地域の方に向けて施設で交流をしようとする。	・地域のPTA会議や、勉強会に参加し情報共有、発信を行う。 ・秋に3周年として施設イベント開催する。	H28.5.15 ～ H29.3.31
3	40	食事を楽しく食べている支援。 冷凍品を湯煎に利用していることを家族が羨ましくないので疑問をもちたてている。	・食事のメニューを通信に掲載したり、外食や行事食を取り入れて楽しんでいる様子を発信し、ご家族に理解してもらう。	・おやつ作りレク(2月1日) ・行事食(季節毎) ・外食(毎月実施)を行う。 ・メニューを通信にのせる。	H28.5.15 ～ H29.3.31
4	13	災害対策 飲料水の補充が充分でない。	必要量を割り出し飲料水を補充する。	飲料水を補充する。	H28.5.15 ～ H28.7.31
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。